



題字 ㊸ 末吉 太郎



ご 挨拶

近畿支部長 渡 辺 卓 司

富山薬窓会近畿支部の皆さまにはつつがなくお過ごしのこととお喜び申し上げます。昨年9月の御嶽山の噴火、今年に入ってから箱根大涌谷の火山活動が気に掛かるところです。今年の梅雨入りは平年より少し早いようです。

さて、昨年の総会では、病態科学研究所の 田代 眞一先生 (59回) に「漢方薬と腸内細菌との作用機序に関する研究」、また薬基盤研究所 創薬基盤研究部の 山田 弘先生 (72回) に「細胞トキシコゲノミクス研究とそのiPS細胞等への応用」という話題を提供していただきました。さらに、富山大学新薬学部長の 細谷 健一先生に「本部の報告と就任挨拶」をお話いただきました。

今年の総会では、小野薬品工業の 笹村 崇先生 (82回) に「オープンイノベーションについて」、また、神戸学院大学の 小野坂 敏見先生 (57回) に「米は主食か?」という話題を提供していただきます。さらに 富山大学 薬学部副学部長の 酒井 秀紀先生 (72回) に「本部の報告など」をお話させていただきます。

恒例により講演の内容を短くまとめてもらいましたのでご参照下さい。新富山薬窓会長の 稲田 裕彦 さんの挨拶も掲載しています。

女性だけの集い芍薬会は12回目を迎えました。20名の参加があり、「近江八幡市内散策、水郷巡り」をされました。近江牛肉専門店の会食を楽しまれたようです。詳しくはきんき遠久栄をご覧ください。今年は姫路城界隈を計画されています。ふるってご参加ください。

近畿遠久栄ゴルフは春、秋、2回の例会に加え、仰岳会との交流会も定着し、2回開催されました。今年度もゴルフ会に人数がなかなか集まりませんでしたが、9月に例会を、また10月に交流会を予定していますのでふるってご参加ください。

近畿支部では2005年1月から月例会「山金会」が発足しました。この会は近畿支部の堀端基金から補助をいただいています。毎月、第3金曜日に、新阪急ホテルB2「ビーツ」に、皆さんが集まります。お陰さまで近畿支部のサロンとしてすっかり定着し、今年3月で111回を迎えました。しかし、年2回の遠久栄寮生会の方々の参加を除き、最近の参加人数は激減しています。4月、5月は同じメンバーで4人だけという状況でした。今後どうするか、考えなくてははいけません。新しい試みとして大忘年会を始めています。去年は場所が確保できず、大新年会となってしまいました。今年には11月に大忘年会を計画していますのでこちら、ふるってご参加下さい。

ところで、近畿支部の事務局を移転しましたが、[振込取扱票]の新規開設に思いのほか時間がかかってしまい、皆様に総会の案内郵送が遅れましたことを、まず深くお詫びいたします。昨年からは近畿支部では年会費を1,000円以上といたしました。総会では12名の方に3,000円、2名の方に2,000円を頂きました。総会に参加されなかった方からも10名の方に2,000円、5名の方に3,000円、1名の方に8,000円を頂きました。お礼と感謝を申し上げます。また今年も、会費収入を少しでも増やすため、近畿支部に一人でも多く入会していただくべく、今年も卒業式当日の謝恩会に事務局長の小林さんに富山まで行ってもらい、近畿支部への新入会への勧誘をしました。

いずれにしても、薬窓会近畿支部の皆様方が、忌憚なく情報交換を図ることができ、また薬窓会会員としてお互い広く友好を深めていただける場を作れるよう強く願っています。いろいろ不備もあるとは思いますが、役員一同協力し、よりよい活動に向けていきたいので、今後ともご指導ご鞭撻の程よろしくお願いたします。

(59回卒)

E-mail: watanabe@peptide.co.jp

オープンイノベーションとは、外部の技術やアイデアを使って革新的な成果を得るための方法論であり、多くの職種において取り入れられています。製薬業界においても非常に注目されており、日本薬理学会の学会誌においては、オープンイノベーションに関する論文が2013年から2014年にかけて連載されていました。注目される背景には、日本及び欧米の多くの製薬企業が革新的な新規の医薬品の創製に苦慮している状況があります。この原因の一つとして、閉鎖的な創薬研究体制があるのではないかと考えられています。企業は自前の研究で新たな知見を見出すことに注力し、その成果を基に新薬開発をしてきました。しかし、それだけでは継続的に新薬を創製することが難しいことがわかってきました。これまでの自前主義を見直し、優れた研究者の最先端の科学と研究成果をより積極的に医薬品開発に適用する必要があると企業は考え直しているのだと思われます。

私が所属する小野薬品工業株式会社において、

過去を振り返ってみると多くの新薬創製の背景には大学との密接な共同研究がありました。各社がオープンイノベーションを積極的に取り入れようとしている中、私はオープンイノベーションを推進する部署に所属する機会を得ました。世界中の大学やベンチャー企業の研究者とお会いし、最先端の科学に関する議論をするとともに、提携に関する様々な協議をしました。革新的医薬品の創製に結び付く研究をどのように探し出すのか、両者に利のあるWIN-WINの関係をどのように構築するのか、など多くの課題を抱えながらも、いくつかの提携を実現することができました。その提携から得られた成果が花開き、患者さんのために有用な新薬の開発につながることを期待しています。

近畿部会の総会におきましては、オープンイノベーションの背景をもう少し詳しく紹介させて頂き、製薬企業におけるその取り組みを経験談を踏まえてお話しさせて頂きたいと考えています。

米は主食? --- 栄養学的データ解析 神戸学院大学 栄養学部 ⑤ 小野坂 敏見

21世紀の地球の問題は、「地球温暖化」と「人口爆発」である。「人口爆発」は、地球上の人口が今世紀に100億人に達すると推定されることに起因する。「地球人口の限界は100億人」と提唱する説に立てば、遠い将来の問題ではなく、現在の児童・乳幼児が生きている時に直面する問題となるかもしれない。

「人口爆発」の問題は、エネルギーの争奪戦、都市のスラム化、失業の増加となって顕在化する。中でも、食糧不足は、生存に直結するだけに、より深刻であり、問題の根幹である。

しかし、このような問題は、人口爆発⇒問題発生とする単純な図式上でのみ成立する。例えば、1798年、イギリスの経済学者マルサスは、「人口は幾何級数的に増加し、生活資源は算術級数的に増加する」と提唱した。この説に則れば、当時の推定人口5億人は、食糧不足で増加困難であるはず。が、現実には70億人に達しているの、マルサス説の破綻は明白である。

人口爆発に起因する食糧について、世界には、コンピュータの発達に伴って膨大なデータ(ビッグデータ)が埋もれている。その中から栄養学に関するデータを発掘し、人間の第一法則である平均寿命(図1)を基にして、栄養素との関係について解析した(図2)。

五大栄養素のなかで、米、麦、イモなどの主成分

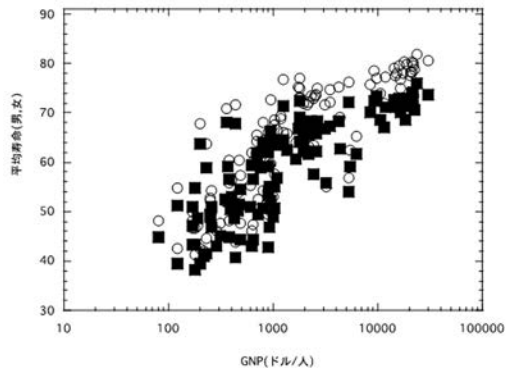


図1 GNPと平均寿命との関係

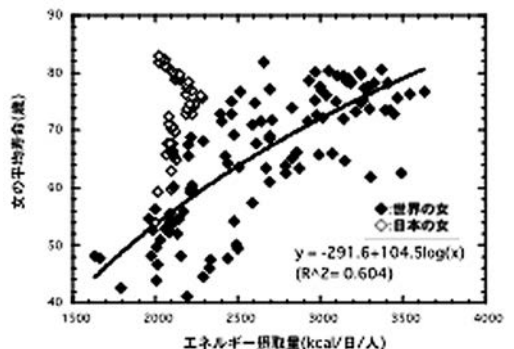


図2 熱量摂取量と平均寿命との関係

である炭水化物は、一般的に『主食』と信じられてきた。しかし、炭水化物の摂取量は、平均寿命と無関係であったならば、主食と言えるのであろうか。また、脂質の摂り過ぎは、肥満の原因になるので、ダイエットでは目の敵にされてきた。では、脂質の過剰摂取で、平均寿命は短くなるのであろうか。埋もれたままのデータを発掘し、パソコンで解析して、これら栄養に関する『常識』を検証する。

さらに、人口が「人の口」と書かれるように、食べる人数に応じて食糧需要が比例することは間違いがない。しかし、人口爆発⇒食糧不足という単純な図式には、疑問がある。食糧需要で、量は計算されていても、その質は考慮されていないからである。食事の質を考慮して、現状での地球上の生存可能人口を

シミュレーションすると、生活の質次第では200億人でも可、という結果に到達できる。ただし、実現には、地球人の平均寿命を40歳にすれば、という有難くない条件を満たすことが必須であるが。

栄養学を離れると、「犯罪は、先進国と発展途上国とでどちらが多いか」、「投票率の低下は、悪いことか」、「喫煙の原因は」などの疑問にも、解答を見つけることができる。

このような解析、シミュレーションに、大型コンピュータは不要である。家庭にあるパソコンを活用し、埋もれているデータを利用して、新たな知見を蓄積すれば、教育と研究を使命とする大学の役割と相通じる。

富山大学薬学部の近況報告 富山大学薬学部 副学部長 ⑦② 酒井 秀紀

富山薬窓会近畿支部の皆様方には、いつも母校に温かいご配慮をいただき本当にありがとうございます。今回、近畿支部総会で薬学部の近況報告の機会を与えていただけることに感謝申し上げます。皆様方にお会いできますことを今から楽しみにいたしております。

平成27年度は110名の新生(定員105名)が入学しました。5月初めには、新生立山合宿研修が行われ、夜の班別討論会では、みんな目を輝かせ、積極的に意見を述べていました。大変に頼もしいと感じると同時に、この先も各々が目の輝きと個性を失うことなく成長してほしいと強く思いました。直近2年間の薬学部新生の出身地で、いずれもゼロの県は岡山、広島、徳島、愛媛、高知、佐賀、長崎、熊本、宮崎、鹿児島島の10県です。以前に比べ中国、四国、九州地方の入学者がやや減少している傾向にあります。他方、2年間の上位5県は、富山、長野、新潟、群馬、愛知の順です。北陸新幹線開業の影響が表れているようにも見受けられます。

今年の第100回薬剤師国家試験では、富山大学は好成績を収めました。全国73大学中、新卒が第3位で、総合が第11位であり、新卒が特に頑張りました。一因として、国家試験前に細谷学部長が、模擬試験の成績不良者をこまめに呼び出され、モチ

ベーションを高めるための激励をされたことが挙げられると思います。

本年春の主な就職状況ですが、薬学科(50名)は病院23名(46%)、薬局18名(36%)、製薬会社3名(6%)、創薬科学科(44名)は進学41名(93%)、大学院修士課程(42名)は研究15名(26%)、技術・分析5名(12%)、開発4名(10%)となっています。

先日、薬窓会近畿支部の百瀬雄章先生の訃報に接しショックを受けました。百瀬先生は、平成元年4月に富山医科薬科大学に教授として赴任され、平成10年3月にご退官なさるまでの長きにわたり、本学の教育・研究に多大なご尽力をなさいました。平成5年～9年までの間、薬学部長をお務めになりました。百瀬先生が「遠久朶」第77号の退官挨拶「九十九折り六十五合目」でお書きになっている文面に、先生の教育・研究への熱意が溢れ出ていると思います。その中の一文「工夫と言えば、私が多数人講義の実情に対して導入して来た“座席指定制”が、ハーヴァード大学方式でもあることを数年前の教育テレビで知った。“とり敢えず入学”の多い本学では、さらなる教育方法の工夫や驚きと喜びと楽しみが触発されるような授業が提供されねばなりませんまい。」は、今でも私の頭に焼き付いています。百瀬先生、いろいろお世話になり本当にありがとうございました。安らかに眠ってください。

新会長挨拶 富山薬窓会会長 ⑦② 稲田 裕彦

富山薬窓会近畿支部会員の皆様におかれましては、益々ご健勝でご活躍の事と拝察いたします。

過日平成27年3月24日の本部理事会の推薦、総会の承認を頂き、松井前会長の後を受けて会長を

務めさせていただくことになりました。1万人を超える会員を擁する富山薬窓会、そして歴代会長が築かれました伝統と歴史を考えますとその責務の重さに身の引き締まる思いが致します。

理事就任後5年あまりとまだ活動歴も浅く浅学菲才な私でございますが、皆様のあたたかいご支援ご協力を頂き、富山大学薬学部と薬窓会発展の為、微力ではありますが頑張る所存であります。

近年、医療と薬にかかわる環境が大きく変化し続ける中で、富山大学薬学部も大学の独立行政法人化と予算の継続的圧縮の影響を強く受けています。大学もひとつの企業体としての脱皮をせまられており、その運営のあり方、方向性を大きく変えなければ生き残ることがむずかしくなっています。

そんな中、薬窓会と致しましては、①会員相互の

交流と親睦を図り、②それをもって富山大学薬学部のさらなる発展に寄与する。この2つのミッションを再認識しつつ、まずは足場固めとして当会が未来にわたってしっかり活動しつづけるためのシステム構築に着手したいと考えています。そのうえで、近畿支部様を含めました日本全国での薬窓会会員のネットワークをさらに強固なものにし、これを若い同窓生の為に集約できれば新たな道が開け、薬窓会活動の活性化へつながら、富山大学薬学部への新しい支援のかたちも構築できるものと思っております。最後になりますが、14年間の長きに渡って会長としてご尽力頂きました松井前会長に深い感謝の意を表しますと共に会員の皆様のより一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

思い出を辿って 椿の足摺岬と四万十川 ④ 川上 四朗

足摺岬は四国の西南端、80メートルの断崖と岬に咲くヤブツバキで知られている。私がまだ20代の頃、愛媛県の宇和島から高知県の土佐中村に向かう途中、寄り道をして足摺岬に立ち寄った。夕暮れの足摺岬は暗くなって足元も良く見えなかった。自生する大きなヤブツバキのトンネルを急いで潜り、暗い海と足摺岬を見たときの強烈な印象が忘れられない。今回は足摺岬を中心にテレビでも紹介されている四万十川を訊ね、更に仕事で担当した街も歩いて昔の思い出を辿ることにした。

新幹線を岡山で乗り継いで愛媛県の今治駅で下車。ビルが建ち、道路も街もすっかり変わっていた。お世話になった病院へ先ず電話「モシモシ前の院長さんはおられますか?」、「亡くなりました。数年前です」、「それでは、奥さんは?」、「奥さんも亡くなりました」。沈黙。次は先輩の薬局を訊ねた。今は娘さんが薬局を継いでいた。先輩が亡くなられたことは知っていた「お母さんは?」、「亡くなりました」。人も街も、私が目で見て懐かしむところでは無くなってしまったのがショックだった。

松山は仕事で長く滞在していたところ、「坊ちゃんゆかりの、きどや旅館」に泊まっていた。お世話になったおかみさんは亡くなってしまった。旅館の建物も無くなって大きなビルに変わっていた。ここも私が想っていた松山ではなかった。

伊予大洲は6万石の城下町、「伊予の小京都」と呼ばれているという。大洲は「おはなはん」のロケで有名になった「おはなはん通り・明治の家並み」など



一部古い街並みが残っていた。しかしここでも街の中心地は昔の面影がない。夕方になって人通りもまばら。私は静かな路地を歩いた。肱川は鶴飼がテレビで放映される川、霧がかかって幻想的な川としても有名。橋上から見る大洲城、鶴飼の川舟が浮かぶ風景は旅情を豊かにしてくれた。

更に南の宇和島も街の変わり方は今治や松山、大洲と同じで駅周辺を歩いても当時の面影は全く無くなって、違った街に来たと思った。どの街も、中心地はみな大きなビルに変わって個性がなくなったのが残念だ。私は50年も前のことを、つい昨日のように錯覚して訪ねて来たことに気がついた。

翌日はバスで宇和島を朝8時半に出発、乗り継いで足摺岬に午後2時に着いた。殆どの区間は乗客が居なくて私ひとり。宇和海の風景は素晴らしく、昔と変わらない情景が懐かしい、見ていて飽きる事が無い。

終点の足摺岬バスセンターの「案内所」で今夜の宿を決めた。宿の娘さんの車でジョン・万次郎像まで乗せてもらって、展望台を案内してもらった。そして「観光が終わったら迎えに来るから電話をするように」と。



観光の遊歩道は40分、1時間、2時間コースがあった。私は2時間コースを選び、他に海岸などを散策した。何故か観光客が殆ど居なかったので、静かで雄大な自然をひとり占め。高さ5～6メートルもある大きなヤブツバキが茂る長いトンネルの中を歩いた。これは私の長年の夢だったから。椿の赤い花、断崖と岩に砕ける白波を見て足摺の雄大さに圧倒された。本当に来てよかったと思った。

足摺岬のヤブツバキは全体で15万本、岬の半島で6万本が自生しているという。樹の高さは普通5～6メートルだが、大きなものでは18メートルにもなるという。冬から春にかけて赤い花が咲く。娘さんが「観光が済んだら迎えに来てくれる」ことになって



いたが、足摺の風景が気に入って夕暮れ、歩いてそのまま宿に戻った。

客が私一人だったせいか、広い部屋に案内され、晩御飯は鯉のたたきなど盛り沢山。

夫婦と娘さんの3人、アットホームな心温まる宿だった。翌日はバスで土佐清水経由四万十市へ移動。

昔の「中村市」が四万十市と名前が変わっただけ

でなく、街の様子もすっかり変わっていた。「土佐の小京都」と言われて情緒のあるところだった。今から550年前、京都を焼き尽くした応仁の乱を避けた一条氏によって京都を真似た街並みが造られたという。私が行った時の中村市は、鉄道がまだ通っていない陸の孤島といわれた街。そこで最初に泊まった宿が「松竹軒」。先ず玄関に入って驚いた。「総理大臣・吉田茂様ご宿泊」、「衆議院議長・林譲二様ご宿泊」など、長方形のヒノキの板に毛筆で大きく書かれた看板が5～6枚も架けられていた。こんな凄いところは私が泊まる宿ではない。他を探そうかと思ったが、呼び鈴を押して通された部屋は比較的粗末な部屋、これで納得。

島津貴子さんは、昭和天皇の皇女で当時「お貴さん」と言われて国民的人気があった。彼女が薩摩藩主末裔の島津久永氏と婚約が成立。独身最後の旅行に高知から別府へ旅行された。私はたまたまその前日に「松竹軒」に宿泊。「川上さん、すみませんが貴子さんが明日お泊りになられるので、他に移ってもらえませんか。」「毎月来て泊まる私と貴子さん、どっちが大事か!」と言った。おかみさんの返事は忘れた。翌日松竹軒に戻ったら「昨日はすみませんでした。その代り昨日貴子さんが泊まった部屋に泊めてあげます」。花が飾られた広い部屋に通された。私がいつも泊まる部屋はピストルを持った警官数人が夜通し警備していたとのことだ。トイレにも珍しく花が飾ってあった。

今回泊まった宿は私が「松竹軒」に来ていたころは田圃だったところ。「松竹軒」のことを話したら、「類焼で焼けてしまって今はもうありません。おかみさんも旦那さんも亡くされました」と。また寂しい思いがした。

観光協会の「マウンテンバイク」に試乗。これに乗るのは初めて。5時間で1000円。少し不安だったが四万十川の上流に向かって出発。赤鉄橋を渡り、トンボ公園を散策。トンボ公園は、四万十川の流域で清らかな水環境に恵まれていて、トンボの宝庫として、そして保護区として知られているところ。今はまだ早春、枯葉とむき出しの土だけが見えた。

四万十川は美しい川。川辺に菜の花が咲いて、柳に微かに柔らかな黄緑の芽が吹き、全長196キロメートル。緩やかな勾配の川は蛇行を繰り返し、ゆったりと流れていた。豊かな自然に育まれて清流にエビや鮎など多くの生物が生息しているという。小舟が川辺に乗り上げられているのが目についた。穏やかな日差し、爽やかな川風、レシーバを通して懐かしいメロデーを聞ききながら自転車を走



らせた。佐田沈下橋が見えて来た。全長291メートルの一番長い橋。欄干が無く橋脚が低いので、増水時に流されることなく水面下に沈むように設計さ

れているという。自転車を降りて歩いて橋を渡った。ゆったりとしたのどかな美しい風景は、心を癒してくれる。最盛期には多くの観光客で賑わうというが、今日は不思議と観光客はいない。時折地元の人が橋を渡っていた。

懐かしい人に会えるかも、私の期待は完全に外れた。お世話になった人は、みな別世界に行かれてしまった。人も街も追憶の世界に変わって、時の流れの儂さを思い知らされた旅だった。足摺岬と四万十川の自然は素晴らしく、私の心を和ませてくれた。

以上

2014年6月1日 薬窓会近畿支部総会 於：阪急ターミナルスクエア17F



近畿遠久朶ゴルフのご報告

平成26年度は、平成26年9月5日と平成27年4月10日に「近畿遠久朶ゴルフ」を開催しました。また、平成26年10月18日の工学部の「仰岳会近畿支部ゴルフコンペ」にお邪魔する形と平成27年4月10日の近畿遠久朶ゴルフに仰岳会近畿支部のメンバーをお招きする形で交流コンペとしました。結果は別表の通りです。

本年度の近畿遠久朶ゴルフは予定が合わず人数が集まりませんでしたので、次回（9月の金曜日の予定）は日程調整のうえ開催したいと考えています。

また、10月(日程未定)に仰岳会との交流コンペを予定しております。たくさんの方々のご参加をお待ちしております。

57回 西 洋壽

72回 百澤美智留

73回 河村 章裕(記)

<近畿遠久朶ゴルフの秋季大会> 平成26年9月5日(金曜日) 箕面ゴルフ倶楽部



成績（敬称略）

| | ハンディー戦 | ダブルペリア戦 |
|-----|--------|---------|
| 優勝 | 河村 章裕 | 菊井 惣 |
| 準優勝 | 菊井 惣 | 益田 拓郎 |
| 3位 | 荻野 嘉丈 | 伊藤誉志男 |

＜第6回富山大学工学部「仰岳会」との交流会＞
平成26年10月15日（水曜日）
茨木高原ゴルフ倶楽部



市川さん（44回）、溝口さん（45回）、菊井さん（54回）、百澤さん（72回）
河村（73回）が参加し、菊井さんが準優勝、百澤さんが3位に入賞とたい
へん健闘されました。

＜近畿遠久朵ゴルフの春季大会 兼
第7回富山大学工学部「仰岳会」との交流会＞
平成27年4月10日（金曜日）
箕面ゴルフ倶楽部



成績（敬称略）

| | ハンディー戦 | ダブルペリア戦 |
|-----|--------|----------|
| 優勝 | 溝口 正 | 河村 章裕 |
| 準優勝 | 河村 章裕 | 益田 拓郎 |
| 3 位 | 益田 拓郎 | 吉田 俊朗(工) |

芍薬会報告

近畿支部では、女性だけの芍薬会があります。毎年秋、近畿一円の楽しい場所に集い、散策、昼食会、おしゃべりを致します。

今年は12回目11月9日『近江八幡市内散策、水郷巡り』を計画致しました。

87回から55回卒業の20名の参加でした。

まずは八幡山のロープウェイで山頂へ行き琵琶湖を一望のはずでしたが、雨模様のため濃い霧に覆われ、ちょっと残念でした。

山を下り、映画やテレビでよく放映されている八幡堀の石畳を、そぼ降る雨の中向かうのは、毎回の楽しみ、昼食です。今回は近江牛肉専門店、千成亭八幡堀店のすき焼き膳に舌鼓を打ちました。

午後にはなんとか雨も上がり、ボランティアガイドさんの説明を聞きながら、ヴォーリス氏ゆかりの近江兄弟社の会社、中高校学舎を周り、手漕ぎ舟三艘に別れての水郷巡り。カイツブリ、太った(?)鴨、鶺鴒が迎えてくれて、ゆったりした穏やかな1時間が流れていきました。

今回は、おしゃべりが足りなかったようですが、老いも若きも同窓が集まれるのは嬉しいことです。

後日、嬉しいお便りをいただきました。その一部をご紹介します。

- ★手こぎの船に波があたる音、忘れません。自然の息づかい、印象に残る一日でした。
- ★水郷巡りは初めてで、風景や船頭さんの話など楽しいひとときを過ごしました。
- ★お陰で楽しい思い出のページが出来ました。

今年は11月15日(日)、綺麗にお化粧直しをした姫路城当たりです。
女性会員皆様のご参加お待ちしております。

お問い合わせは 吉田 重子 (57回)090-1221-3005
柚本アヤ子 (58回)090-9875-7862



56回 奥山さん撮影

(文責 吉田)



挿画：逸見誠三郎

★事務局より★

今年120年の歴史と伝統ある母学出身の皆様、富山葉窓会近畿支部事務局では支部の運営や行事について、皆様のご意見を広く承りたいと思っています。毎月第三金曜日に開催しています例会“山金会”に参加頂き皆様の生の声を広くお聞きしたいと願っています。山金会は新阪急ホテルのビーツで開催しています。

また、この“きんき遠久朶”の紙面を有効にご利用下さい。

原稿はいつでも受け付けていますのでよろしくお願いたします。

さらに、Eメール等で、

支部長 渡辺: watanabe@peptide.co.jp

幹事長 宮本: k-miyamoto@towayakuhin.co.jp

事務局長 小林: masa_kobak8@yahoo.co.jp

にご連絡下さい。特に近畿支部会員のEメールアドレス一覧表を作成中ですので、皆様のアドレスを事務局までお知らせ下さい。相互の連絡に広く利用したいと思っています。

年会費 (1,000 円以上の募金) について:

会報誌きんき遠久朶の発行と、総会の案内などの諸運営の一助に当てるため、毎年 1,000円以上の年会費を募集しています。このため、総会案内と同時に振替用紙を同封しています。年会費を納めていただいた方には会報誌を送付させていただきます。近畿支部の活動と運営にご理解をいただき、ご協力をお願いいたします。

なお、総会出席者の会費の中には年会費を含ませていただいています。

26年度は総会で 22,000円の寄付金が、また郵送してもらった年会費で 27,500円の寄付金を頂きました。厚く御礼申し上げます。

近畿支部会になって10年以上がたち、大所帯になり、また事業の立ち上げもあり経費も増大しています。先輩がたの篤志による基金の利息は昨今では微々たるものとなり基金の取り崩しで補っている次第です。

事情をよろしくご賢察下さい。

平成26年度 支部活動

- 近畿支部総会 平成26年 6月1日
於:臨急ターミナルスクエア17F
- 芍薬会(女性会員サークル) 平成26年11月9日(日)
芍薬会は第12回目を迎えました。出席者は 20名で、近江八幡市内散歩、水郷巡りを企画しました。八幡山のロープウェイ、八幡堀の石畳、昼食は近江牛肉専門店、千成亭八幡堀店のすき焼き膳に舌鼓を打ちました。
- 山金会(毎月第三金曜日)
於:新阪急ホテル Beets
平成26年 5月16日 / 6月20日 / 7月18日
8月15日 / 9月19日 / 10月17日
11月21日 / 12月19日
平成27年 1月16日(新年会) / 2月20日
3月20日 / 4月17日 / 5月15日
※山金会は、最近集まりが悪くなっています。堀端基金の残金も考え、今後どうするかを考える時期のようです。
- 大新年会
於:ガーデンシティークラブ大阪
会場の予約が取れず、新年会となり、26名の参加をいただきました。
今年は大忘年会とする予定ですので、皆様ふるってご参加下さい。

富山葉窓会近畿支部 収支決算報告書

(2014.4.1 ~ 2015.3.31)

| <収入の部> | (単位:円) |
|---------------|-----------|
| 支部総会会費(68名) | 502,000 |
| 年会費(78名)+寄付金 | 121,670 |
| 大新年会(26名)剰余金 | 39,096 |
| 寄付金 | 1,800 |
| 利息(三井住友銀行) | 123 |
| 前年度より繰越し | 872 |
| 基金より繰入れ | 283,584 |
| 計 | 949,145 |
| | |
| <支出の部> | |
| 支部総会費 | 397,125 |
| きんき遠久朶発刊費 | 184,680 |
| 年会費手数料 | 6,931 |
| 総会案内発送料、その他送料 | 75,951 |
| 旅費 | 22,300 |
| 事務委託費 | 64,800 |
| 山金会補助(11回) | 197,000 |
| 書類整理用ノート購入費 | 358 |
| 計 | 949,145 |
| | |
| 近畿支部基金 | 2015.3.31 |
| 三井住友信託銀行 | 2,521,984 |
| 三井住友銀行 | 1,658,132 |
| 計 | 4,180,116 |

平成26年度 年会費協力者

| | | | | | | | |
|-------|--------|-------|--------|-------|--------|--------|--------|
| 32-4 | 中島 靖介 | 47-12 | 平尾 宏子 | 56-11 | 吉川 和憲 | 62-07 | 津田 裕子 |
| 33-3 | 中野 茂 | 48-05 | 小野 壽彦 | 56-12 | 荻野 嘉丈 | 63-01 | 釜谷 美恵子 |
| 35-1 | 堤 堅司 | 48-09 | 菅野 紘 | 56-13 | 加藤 研治 | 63-03 | 貞包 久代 |
| 36-5 | 前田 傳三 | 48-10 | 野田 和夫 | 56-17 | 安本 嘉代 | 63-06 | 横田 弘 |
| 38-6 | 野田 泰男 | 48-12 | 飯田 晋一郎 | 57-09 | 阪上 優子 | 63-07 | 相坂 一雄 |
| 39-2 | 大橋 保 | 48-13 | 平野 紘子 | 57-14 | 吉田 重子 | 63-10 | 川村 喜三郎 |
| 39-4 | 沼田 美智子 | 49-09 | 中塚 鞠子 | 57-16 | 近藤 正躬 | 66-02 | 小西 圭子 |
| 40-3 | 人見 五郎 | 49-11 | 福元 成夫 | 58-03 | 上田 泰生 | 66-14 | 山本 哲子 |
| 40-4 | 森下 恭男 | 49-16 | 山本 昌利 | 58-04 | 掛見 佳代子 | 67-02 | 大江 善則 |
| 41-1 | 奥村 隆一 | 50-03 | 小山 恵子 | 58-05 | 勝山 巖 | 67-07 | 宮崎 啓衣子 |
| 41-2 | 曾根 良治 | 50-16 | 川内 美栄 | 58-10 | 仲井 慶次 | 68-02 | 柏谷 純子 |
| 41-4 | 小西 友義 | 50-18 | 山崎 慎之助 | 58-15 | 皆川 彰 | 68-03 | 中田 孝紀 |
| 41-5 | 榊原 章光 | 51-01 | 河原 純子 | 58-18 | 湯朝 安代 | 68-04 | 服部 竜八 |
| 41-8 | 仲野 永二 | 51-04 | 坂本 清則 | 58-20 | 柚本 アヤ子 | 68-10 | 河口 公子 |
| 42-1 | 相方 博文 | 51-06 | 永岡 道代 | 58-21 | 米田 行徳 | 69-02 | 大江 桂子 |
| 42-3 | 百瀬 雄章 | 51-07 | 東 哲郎 | 58-24 | 武久 正子 | 69-07 | 横田 文子 |
| 43-1 | 加藤 秀夫 | 51-08 | 益田 拓郎 | 58-25 | 鳥居 文子 | 71-02 | 西尾 孝 |
| 43-4 | 菊地 克信 | 51-09 | 室井 正之 | 58-31 | 石田 貢 | 72-02 | 鶴澤 豊 |
| 43-6 | 長谷 純子 | 51-11 | 横山 浩 | 59-01 | 小野 史郎 | 72-08 | 百澤 美智留 |
| 43-8 | 蛭谷 衛 | 51-12 | 横山 みどり | 59-02 | 小野 むつ子 | 73-02 | 河村 章裕 |
| 44-3 | 川上 四朗 | 51-13 | 渡邊 和子 | 59-07 | 島村 裕子 | 74-09 | 高橋 隆幸 |
| 45-01 | 小西 和子 | 52-03 | 桂 恵美子 | 59-08 | 田代 眞一 | 76-01 | 西村 誠 |
| 45-02 | 高橋 明子 | 52-07 | 中川 久夫 | 59-13 | 村上 牧子 | 76-02 | 安居 輝人 |
| 45-03 | 中林 靖 | 52-08 | 一柳 博康 | 59-14 | 渡辺 卓司 | 78-10 | 北川 陽子 |
| 45-05 | 本多 芳明 | 53-02 | 檉葉 敏子 | 59-16 | 太木 恵美 | 83-04 | 松田 彩子 |
| 45-07 | 溝口 正 | 53-03 | 菊井 昴 | 59-17 | 原 秀敏 | 86-04 | 山崎 寿明 |
| 45-08 | 村田 頼彦 | 54-02 | 天津 栄子 | 59-19 | 石山 久志 | 86-07 | 志摩 典明 |
| 45-09 | 吉屋 久雄 | 54-03 | 有田 斉 | 59-20 | 岩井 章洋 | 86-08 | 前川 竜也 |
| 45-10 | 垣見 怜子 | 54-04 | 有田 寿子 | 59-26 | 福地 滋夫 | 97-01 | 山口 薫 |
| 46-01 | 荒木 栄一 | 54-05 | 菊井 惣 | 60-02 | 稲崎 恵美子 | 99-12 | 藤田 樹生 |
| 46-02 | 石黒 聖啓 | 54-06 | 水野 憲一 | 60-04 | 岡野 美臣 | 101-02 | 津島 遼平 |
| 46-08 | 三浦 健 | 54-09 | 本川 猛朗 | 60-06 | 小林 正史 | 101-03 | 高橋 佳佑 |
| 46-09 | 森野 行雄 | 55-04 | 持家 照子 | 60-14 | 宮本 金夫 | D08 | 北村 佳久 |
| 47-03 | 久保 一義 | 55-05 | 田淵 千里 | 60-20 | 姜 仁順 | | |
| 47-05 | 武中 梅子 | 56-04 | 木村 正昭 | 61-04 | 豊田 繁 | | |
| 47-07 | 中村 信一 | 56-08 | 富田 尚子 | 61-09 | 菊地 武夫 | | |
| 47-11 | 平尾 元紀 | 56-09 | 濱島 健二 | 61-10 | 菊地 みつ子 | | |

富山薬窓会近畿支部

役 員

(2010年5月23日承認:一部変更あり)

| | | | |
|---------|---|--|--|
| 支 部 長 | (59) 渡辺 卓司 | | |
| 副 支 部 長 | (71) 西尾 孝 | (60) 姜 仁順 | |
| 幹 事 長 | (60) 宮本 金夫 | | |
| 事 務 局 長 | (60) 小林 正史 | | |
| 事 務 局 | (75) 荒井 実 | (76) 西村 誠 | |
| 会 計 | (59) 原 秀敏 | | |
| 会 計 監 査 | (58) 勝山 巖 | (58) 柚本 アヤ子 | |
| 山 金 会 | (72) 鶴澤 豊 | (58) 上田 泰生 | |
| 遠久朶ゴルフ | (57) 西 洋壽 | (72) 百澤 美智留 | (73) 河村 章裕 |
| 芍 薬 会 | (57) 吉田 重子 | (69) 横田 文子 | |
| 幹 事 | (56) 吉川 和憲 (59) 福地 滋夫 (61) 菊地 武夫 (63) 相坂 一雄 (72) 百澤 美智留 | (57) 小野坂 敏見 (60) 竹村 眞知子 (63) 釜谷 美恵子 (63) 横田 弘 (73) 河村 章裕 | (57) 阪上 優子 (61) 豊田 繁 (63) 豊田 由紀 (69) 横田 文子 |
| 評 議 員 | (40) 人見 五郎 (44) 山住 拓一 (46) 森野 行雄 (48) 飯田 晋一郎 (52) 一柳 博康 (56) 荻野 嘉丈 | (41) 仲野 永二 (45) 溝口 正 (46) 石黒 聖啓 (48) 小野 壽彦 (53) 菊井 昴 | (44) 山崎 昭平 (45) 本多 芳明 (47) 中村 信一 (52) 桂 恵美子 (56) 濱島 健二 |
| 顧 問 | (36) 堀端 栄之助 | | |

() 内 卒業回数

